

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	真木地区の水車小屋復活！学びと実践事業
事業主体 (連絡先)	NPO 法人共働学舎 信州共働学舎 真木農場 小谷村大字千国乙12592 TEL 0261-82-3021
事業区分	(5) 環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	2,553,774 円 (うち支援金：1,903,000 円)

事業内容

建築の専門家から伝統工法を学び、来客者と共に労働し、真木地区で一時途絶えた水車と水車小屋の復活を目指した。

- 墨付け・刻み 大工さんに墨付けしていただいたものを共働学舎メンバー中心に9月まで刻む。
- 整地 6-7月 切り土・盛り土し、整地
重機械の入らない場所での手掘り。ボランティア多数
- 基礎工事 8月上旬 基礎石を設置するために地突き。
三叉を使い、グリ石を突く。勤労合宿参加者と共に。
- 建築資材の荷揚げ 高校生ボラと共に、背負子で。
- 上棟 11月中旬 材の木組を大工さんに学ぶ。
- 水車組立 12月中旬 加工された材を荷揚げ、組立て。



【水車を組み上げ皆で喜ぶ】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 水車と小屋設置ができ、次年度予定の製材機設置計画に向けて大きな足掛かりとなった。景観づくりへも一役となった。
- ② 伝統建築技術を学ぶことは、自らの手や頭を使うよい時となり、若手メンバーの技術習得意欲が上がった(定住促進につながる)。基礎石を据える昔の手仕事の復活もなかった。
- ③ 来客者は団体(国際ワークキャンプ、野外教育養成講座のボランティア、少年少女勤労合宿の参加者、高校生修養会、大学のゼミ等)、個人と延べ120名以上となり、共に汗して働き、良い交流が持てた。次年度も、学校関係は教育の場として使用予定。

- ① 水車と小屋設置
- ② 伝統工法の技術習得
- ③ 来客者との交流

【目標・ねらい】

※自己評価 **【A】**

【理由】 予定していた建物・及び設備が得られ学び多い事業だった。刻み加工が遅れたり、天候に左右されたりと不安もあったが、期日内に無事に終えることが出来た。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

水車と小屋が設置され、今後の計画である製材機設置へ向けて、建物改修へと大きく前進した。次年度以降も大勢の来客が見込まれる事から、景観づくりやモノづくりの喜びを共有したい。手を動かし頭を働かせて、野で労作することは、「重要な教育」と共に労した教育者も考えていることから、今後も学校教育の現場として用いられる。水車動力による製材機の利用は関心を寄せられている、集落内に残された道具など用いて技術の復活、学び、実践を継続したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある